

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



## 2024年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

### 解答速報！

2024/10/11 現在

#### 【科目Ⅲ】

##### 第1問（10点）

問1 A 問2 B 問3 D 問4 C 問5 B

##### 第2問（20点）

I 問1 C 問2 B 問3 A 問4 D 問5 B 問6 E

II 問1 C 問2 A 問3 B 問4 D 問5 C

##### 第3問（15点）

I 問1 C 問2 B 問3 A 問4 D 問5 A

II 問1 A 問2 B 問3 C

##### 第4問（23点）

I 問1 B 問2 E 問3 E 問4 C 問5 D 問6 D 問7 C

II 問1 D 問2 C 問3 B

III 問1 B 問2 B 問3 D

##### 第5問（22点）

I 問1 A 問2 E 問3 B 問4 A 問5 C 問6 C

II 問1 D 問2 A 問3 B 問4 D

III 問1 E 問2 D 問3 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2024年（秋）証券アナリスト1次試験

科目Ⅲ（職業倫理・行為基準、数量分析と確率・統計、市場と経済の分析）

■職業倫理・行為基準

問題	2023年春	2023年秋	2024年春	2024年秋
第1章 証券アナリスト 職業行為基準の概要	問1、問3	問1	問1	問1
第2章 職業的専門家に 重要な信任義務	問2	問2	問2、問3	問2、問3
第3章 信任義務を果た すための忠実義務	問4	問3	問3	問3
第4章 信任義務を果た すための注意義務	問5	問4、問5	問4、問5	問4、問5

過去4回の試験と同様に、第1問として計5問が出題された。問1が協会通信テキストの第1章「証券アナリスト職業行為基準の概要」、問2と問3Aが第2章「職業的専門家に重要な信任義務」、問3が第3章「信任義務を果たすための忠実義務」、問4、問5が第4章「信任義務を果たすための注意義務」に関する出題であった。秋試験では春試験と同様、選択肢の中から正しいものを選ばせる問題が3問、正しくないものを選ばせる問題が1問、穴埋め問題が1問出題された。忠実義務や注意義務だけでなく、それらに付随した条項に関する出題もみられ、今回も春試験に続き投資の適合性の確認等に関する問題が出題された。

■数量分析と確率・統計

カリキュラム改定後6回目となった本分野の出題は以下の通りであった。

第2問 (20点)				
		テーマ	問題形式	出題領域 (協会通信テキスト)
I	問1	確率関数と累積分布関数	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問2	正規分布	正誤選択	第4章 確率分布
	問3	記述統計と推計統計	正誤選択	第5章 推定と検定
	問4	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定	正誤選択	第5章 推定と検定
	問5	微分	計算問題	第7章 微分と最適化の基礎
	問6	制約条件付最大化問題	計算問題	第7章 微分と最適化の基礎
II	問1	母平均の信頼区間	計算問題	第5章 推定と検定
	問2	母平均の水準の仮説検定	計算問題	第5章 推定と検定
	問3	仮説検定	正誤選択	第5章 推定と検定
	問4	単回帰モデルの最小二乗推定値	計算問題	第6章 回帰分析の基礎
	問5	単回帰モデルの決定係数	正誤選択	第6章 回帰分析の基礎

問題構成は、Iが小問6題からなる個別問題、IIが小問5題からなるユニット問題。本年度の春試験ではI・IIともに小問5題だったため、Iが1題増え、全体で小問11題となった。これまで10~12題であったので、ほぼいつも通りの出題量といえる。

出題内容については、記述統計と推計統計の区別に関する問題が初めて出題されたが、過去5回の試験で既出のテーマがほとんどであった。春試験に出題されなかった回帰分析も、今回は出題されている。また、科目I (証券分析とポートフォリオ・マネジメント) や科目II (コーポレート・ファイナンス) の学習を前提とした問題がなく、かなりすっきりとした素直な問題という印象を受けた。主要テーマがカバーされ難易度が高くなっている側面もあるが、素直な問題であったため、受験者にとっては比較的解きやすかったと思われる。全体的なバランスもよく、今後、こうした傾向が定着するのではなかろうか。

なお、II問2 (片側検定) の帰無仮説の表記方法が通信テキストと異なっており、これは好ましくない。この問題の表記が多くのテキストで採用されている標準的なものなので、通信テキストの表記の変更を期待したい。

## ■市場と経済の分析

今回の秋試験は、試験制度の改正により「経済」から「科目Ⅲ」に改編されて6回目です。「科目Ⅲ」のうち、第3問から第5問までの「市場と経済の分析」についてみてみますと、試験制度の改正以降、難度が高い試験が続いていますが、今回の試験では、これまで出題されていなかった内容もいくらか出題されているため、多くの受験者にとって、さらに難度が高まった印象があったのではないのでしょうか。

大問別に今回の試験内容を概観してみますと、第3問（ミクロ経済）では、消費者行動の分析（最適消費量と需要関数、需要の価格弾力性、エンゲル曲線、エンゲルの法則、需要の所得弾力性、ギッフェン財など）、完全競争市場（成立条件、比較静学、ワルラス的調整過程、消費者余剰など）、不完全競争市場（独占市場と参入障壁、独占的競争市場、価格差別、屈折需要曲線の理論など）から出題されています。

第4問（マクロ経済）では、国民経済計算（GDP、支出項目の相対的寄与度など）、景気循環の見方、45度線モデル、IS-LM分析、AD-AS分析、GDPギャップ、フィリップス曲線とオークン法則、労働需要関数と失業率などから出題されています。

第5問（金融と財政、国際経済）では、マネースtock統計、日本の金融政策手段、金融政策の特徴、財政政策と財政の機能、ケンプリッジの現金残高方程式、関税賦課や輸入数量制限の効果、生産可能性フロンティア、国際機関、購買力平価仮説、国際収支統計などから出題されています。